

展 示 品 目 録

書名	刊行年	内容
Phytanthoza-Iconographia / Johann Wilhelm Weinmann	1737-1745	(花譜 / ヨハン・ウィルヘルム・ウェインマン) 薬種商のウェインマンが、多くの画家を雇って植物画を描かせそれをまとめて出版した図譜集。植物名は二名法以前のラテン語で記されており、アルファベット順に集録されている。図版は銅版画手彩色。植物画家のエイレットによる画も含まれている。 ラテン語版、ドイツ語版、オランダ語版がほぼ同時期に出版された。江戸時代の日本にオランダ語版が入り、当時の本草学者に影響を与えた。当館ではドイツ語版を所蔵している。
Figures of the most beautiful, useful, and uncommon plants described in the Gardeners dictionary / Phillip Miller	1760	(園芸事典収録植物図集 / フィリップ・ミラー) フィリップ・ミラーの著作「Gardener's dictionary(園芸事典)1731」に記載された植物のうち、300種を図にした図譜集。エングレーヴィングによる彫版と手彩色で制作されている。内16図は、植物画家エイレットの手によるもの。300種すべてチェルシー薬草園で栽培されていた植物。
The botanical magazine, or, Flower-garden displayed	1787-	(カーティス・ポタニカルマガジン) 薬剤師で園芸家のウィリアム・カーティスによって創刊された植物学雑誌。植物園で栽培されていた異国の目新しい植物を紹介する目的で始められた。植物画家が描き彩色されたカラー図版と、専門家による詳しい解説が掲載されている。一枚の図に一種類の植物を描くという、いわゆる「植物画(ポタニカルアート)」の形式を確立させた雑誌とも言われている。シリーズ4までの図版は、一部を除き全て手彩色。現在もイギリスのキュー植物園から「Curtis's Botanical Magazine」の誌名で刊行され続けている。
British phaenogamous botany, or, figures and descriptions of the genera of British flowering plants / W. Baxter	1834-1843	(イギリスの顕花植物 / ウィリアム・バクスター) オックスフォード植物園の管理主任であったバクスターによる、イギリスの植物相に関する本。カラー図版はエングレーヴィングによる彫版と手彩色による。この図版は、オックスフォード在住の画家二人が描き、バクスターの娘たちによって彩色されたもの。
Handbook of the British flora / George Bentham Vol.1-2 2nd ed.	1865	(英国植物誌便覧 / ジョージ・ベンサム) 当時のイギリスでの著名なハンドブックで、著者の死後も繰り返し版を重ね、1世紀以上学生に使用され続けた。掲載された図は、19世紀の代表的な植物画家ウォルター・フィッチによるもの。図版が付随しているのはこの第2版のみである。
※当館所蔵の上記2冊は、合冊して製本されている。『英国植物誌便覧』をベースに、該当する植物の図版を『イギリスの顕花植物』からあてはめ挿入してある。		
Atlas der officinellen Pflanzen : Darstellung und Beschreibung der im Arzneibuche für das Deutsche Reich erwähnten Gewächse Bd.1-4	1893-1902	(薬用植物図譜:ドイツ帝国の薬局方に挙げられた植物に関する記述) 薬用として用いられる植物の図譜集。図版を手掛けたSchmidtは、ドイツで多くの植物画を描いた19世紀の画家。「特に賞賛される図版は、筆致と着色が美しいだけではなく科学的精度も高い。一般的な植物学者に役立つと同時に、薬用植物を学ぶ学生にとっても価値ある著作となるであろう。」(Science N.S. Vol.10 P.28 1899より)
The cottage gardener →The journal of horticulture(1861-1915)にタイトル変更	1848-61	(コテージガーデナー) ジョージ・ウィリアム・ジョンソン(本職は法廷弁護士)が創刊した週刊園芸新聞。読者層は、適度な収入のあるアマチュアガーデナーを想定している。ジョンソンは、一般の園芸愛好者を増やすことに熱心な人物であった。 1858年からは、果樹学で知られるロバート・ホッグが編集に参加し、1861年には新たに発行会社を設立してタイトルも変更になった。
L'illustration horticole : Journal special des serres et des jardins	1854-1893	(挿画入り園芸雑誌:特別な温室と庭園の雑誌) ベルギーの園芸家Ambroise Verschaffeltによって創刊された月刊誌。当時の著名な植物画家や石版作家が手掛けた、新種や栽培品種の多色刷石板図版・植物の歴史や文化、園芸の歴史等の記事・新製品情報・主要な展示会や学会の報告などで構成されている。1869年からはリンデンが編集を引き継いだ。 Jean Jules Linden (1817-1898):蘭の分野で特に有名なベルギーの園芸家。新種を求めて自らプラントハンティングにも参加し、息子とともに園芸ビジネスを成功させた。

展 示 品 目 録

かい そうぶ 花彙(草部)	天保14 (1843)	初版宝暦9年(1759)。小野蘭山著。著者は松岡玄達の門人。同門の島田充房による草部を引き継ぎ、草部・木部全8巻を完成させた。伝統的な「本草書」には必須の薬効などの記述を省き、純粋に植物について論じた書。蘭山による写実的な植物図は秀逸。本書は山本亡羊による校正を加えて復刻したもの。
そうめいしゅう 草名集	不明	初版発行は文政5-10(1822-1827)。植物を題材とする俳画書で、各植物ごとに絵と句を載せる。春冬・夏・秋の三部三冊。一部多色刷り。句だけでなく絵も複数の画家が担当している。本書は明治・大正期の復刻と思われる。
ほんぞう ずふ 本草図譜	大正5-11 (1916- 1922)	初版文政11-天保15年(1828-1844)。岩崎常正(灌園)著。多色刷り木版。原本は当初木版・手彩色で版行されたが経費が維持できず、後には手彩色写本という形で予約販売された。日本最初の植物図鑑といべきもの。本書は大正期の復刻版。
しつもんほんぞう 質問本草	天保8 (1837)	呉継志著、村田経稻校訂。薩摩藩の命により編纂された薩南諸島・琉球諸島の植物誌。160種の植物についての優れた図および解説で、薩摩本草学中出色の書と言われる。
し き の はなぞの ぜんぺん 四季廻花園 前編	明治24 (1891)	小川安村著。103種の園芸種の花々について解説し、その栽培方法を簡略に記す。巻頭には鮮やかな多色木版刷りの図版が多数収められており、1画面に植物3~5種がとりまぜて描かれている。東京三田育種場発行。
ざっそうしゃしん 雑草写真	不明	約60種の雑草の手描き彩色図。著者・年代とも不明。あげられている雑草は細かく区別されており、植物の知識のある人物の手によるものと思われる。
かだんあさがおつう 花壇朝顔通	文化12 (1815)	壺天堂主人著、森春溪画。大阪で最初に発行された図譜集。乾坤2冊からなる。多色刷り木版。それぞれの図に花名と和歌・俳句を付してある。付録として変化朝顔の栽培法も記されている。
あさがおそう 朝顔叢	[序]文化13 (1816)	四時菴形影著。江戸で最初に発行された図譜集。多色刷り木版。上下2冊からなる(当館は上巻のみ所蔵)。現在では失われた黄色い朝顔や、「巻絹」と呼ばれる変化種も見られる。序文は狂歌師大田南畝による。
あさがおはなあわせ 朝顔花併	[序]嘉永6 (1853)	山内穠叢園撰。品種目録。巻頭に多色刷り木版図を載せる。穠叢園は大阪で活躍した栽培家と思われ、『三都一朝』等には栽培者として「大阪 穠叢園」とある。
さん と いっちょう 三都一朝	嘉永7 (1854)	朝顔図譜集。植木屋成田屋留次郎が刊行、田崎草雲画。多色刷り木版。各図には、それぞれ花名・栽培者名を記す。「三都」とは江戸・大阪・京都を指す。
と ひしゅうきょう 都鄙秋興	不明	朝顔図譜集。原本『都鄙秋興』は安政4(1857)、成田屋留次郎が刊行、野村文紹画。多色刷り木版図に、それぞれ花名・栽培者名を記す。本書は原本と『三都一朝』等を再編集して発行したものらしく、『三都一朝』と同一の図が多数含まれている。
あさかほ穠久会雑誌	明治33-45 (1900- 1912)	当館では1-26号を所蔵。あさがほ穠久会の会報。あさがほ穠久会は、東京で初めて誕生した変化朝顔の同好会。各号の巻頭にカラーと白黒の図版数枚を掲載。
あさがおがほう 朝顔画報	明治34 (1901)	明治34年(1901)創刊の有料月刊誌。上林松寿編。当館では2巻1-4号を所蔵。各地の朝顔同好者から掲載原稿を募り、朝顔会開催の情報や栽培に関する記事等を掲載した。巻頭に彩色木版図を掲載。
そうもくそだてき 草木育種	不明	初版文化15年(1818)。岩崎常正(灌園)著。上下2巻。草木の栽培技術を詳細に記述する。灌園自身の手による図を多数含み、接木や防虫の法などが具体的に記述されている。天保8年(1837)、弟子の阿部喜任によって『草木育種後編』が発行されており、本書はこれを併せて全4冊として復刻したもの。
お も と ばいようひろく 萬年青培養秘録	明治18 (1885)	篠常五郎著。著者は江戸文化年間から続いた万年青の老舗「根岸の肴舎」の4代目。植替えや土作りのノウハウなどを図入りで具体的に記す。巻頭には万年青の展示会の様子を描いた図を掲載。序文は栗本鋤雲による。
そさいなえどこじつきょう 蔬菜苗床實況	[序]明治22 (1889)	練木允緝著。関東近県における蔬菜の促成栽培技術についての詳細な報告書。「農商務省」の用紙に4冊にわたって筆記されている。栽培品種ごとに各地域の技術を紹介し、詳細な図(彩色図含む)を多数載せる。